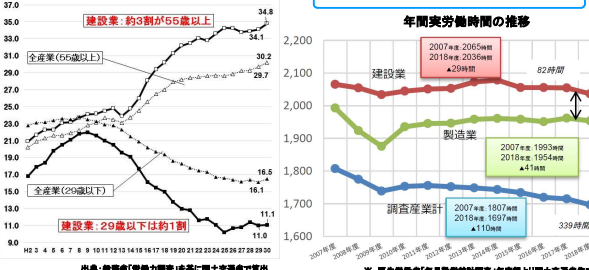


現状と課題

○従来の建設現場のイメージ
3K(きつい、汚い、危険)、高齢化、休暇が取れない(残業多い)等

建設業就業者の高齢化の進行
建設業就業者は、55歳以上が約35%、29歳以下が約11%と高齢化が進行し、次世代への技術承継が大きな課題。



○昨今の状況と新たなイメージの打ち出し
新3K(給与、休暇、希望)、頻発する災害に対する地域の担い手確保、働き方改革、生産性の向上 等

i-Construction
建設現場の生産性・安全性向上
ICTの導入等により、中長期的に予測される労働力不足の解消
ICTの導入等により、現場作業の高度化・効率化により、工事日数を短縮し、休日短縮

リブランディング

建設業の存在意義
「日本の国土・まちを『つくる』・『まもる』(仮)」

建設業の将来像 (新たな価値)
働き方改革
生産性革命
使命感 チャレンジ

情報発信のコンセプト
イガいに「おしゃれ」・「かっこいい」
イガいに「ハイテク」・「スマート」
「地域の守り手」

建設現場で働く「人にフォーカス」

リブランディングの必要性

官民による推進母体での施策推進

全国展開の施策

- ①災害対応における着用物の統一化
- ②工事銘板による技術情報の発信
- ③女性活躍の推進
- ④建設現場のイメージ映像の配信

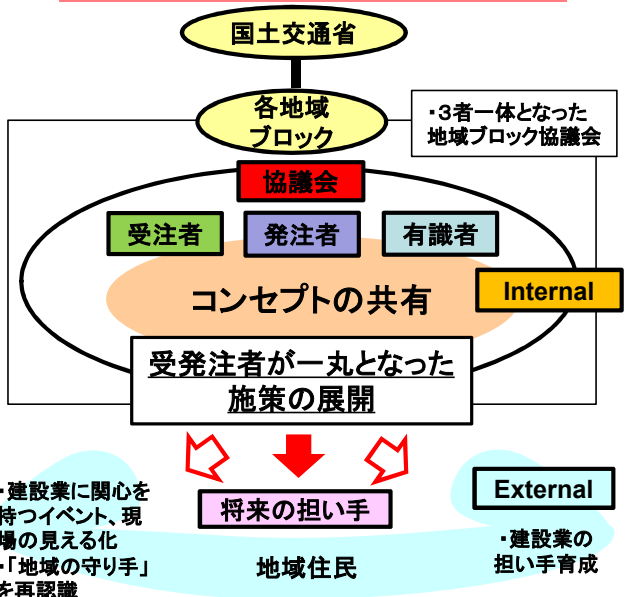
①地域の安全・安心確保や社会貢献できる「誇り」を共有

② 工事に携わった関係者の「誇り」と「やりがい」の向上

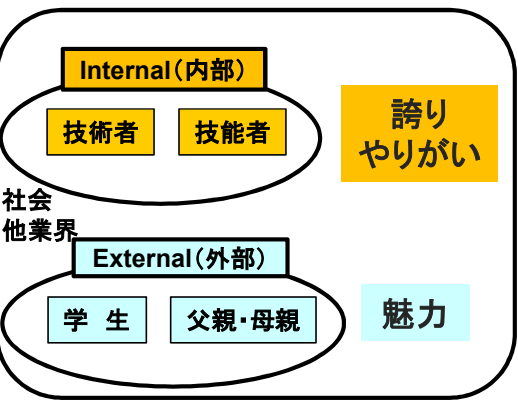
③ 女性が活躍できる職場環境の改善、ロールモデルの発信

④ ポータルサイトによる一括化

点から面となった取組へ ～官民一体となった体制の構築～



情報発信にあたっての重要な視点 ～ターゲットの明確化～



ステークホルダーの意識・関心にあわせた情報を発信

ブロックで取り組む施策

仮囲いデザインアイデアコンテスト
建設現場に従事する技術者の紹介 (国土交通省 関東地方整備局)
技術者・技能者表彰

若手技術者の底力～道を作る達成感～

受・発注者が協働した魅力の発信

○上記の取組と併せて、建設現場で働く人々の「生の声」の募集や、他業界とのコラボレーションを必要に応じ実施。